

# 教師ノート

週課	第一年 第一一課 第二週
単元	創世記・4
テーマ	神の計画と人間の計画
タイトル	祝福を横取りしたヤコブ
テキスト	創世記 25:19-34、27:1-41
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 箴言 19:21
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻 3 題 1 課、小下 2 巻 3 題 2 課、小上 2 巻 2 題 11 課
□導入	興味を起こす質問をしましょう。 例1:お友だちや兄弟が持っているものを自分も欲しくなったら、あなたはどうしますか?おやつや、おもちゃの数が少ないとき、横取りしたり、されたりしたことはありますか? 例2:あなたは、「いつも長男(長女)ばかり怒られる」とか、「弟(妹)はいつも兄(姉)に負けるから損だな」とか思ったことはありませんか?長男(長女)に生まれて、いいことって何でしょうか?
☞	長子の特権:旧約時代、長子は、父の立場を受け継ぎ、子孫を絶やさないという重大な責任をもっていましたので、その分、特権も与えられていました。弟たちの2倍の財産を相続することができました(申命記21:17)。ここで、イサクの長子に与えられる特権は、お金や地位の継承だけではなく、霊的にも重要なものです。アブラハムに与えられた契約(神の民としての霊的祝福)を受け継ぐ権利を含みます。
□ポイント1	ヤコブは長子の特権が欲しくてエサウから奪いました(25:19-34) リベカは約20年間妊娠できませんでしたが、イサクの祈りがきかれ、双子の赤ちゃんが与えられました。23節で神はリベカに、お腹にいる双子が将来2つの国民として増え、互いに争うことを伝えられました。お腹の中での争いは、そのまま外の世界で続きます。また、「兄が弟に仕える」とはっきり宣言されています。弟が神の契約の民になることは、神が初めから選んでおられたのです。この後展開するヤコブの人間的な計画や能力とは関係ありません。エサウは外で活発に働く獵師、ヤコブは穏やかで天幕で家畜の世話をする人となりました。イサクがエサウを、リベカがヤコブを偏愛したことは、この後のストーリーにも深く関わってきます。 獵から帰ってきたエサウは飢え疲れて、ヤコブに煮物を求めます。ヤコブは兄弟として、エサウの必要に素直に応えるべきでしたが、彼は長子の特権との交換を要求しました。大切な経済的・霊的・長期的祝福を、その場の一時的な空腹を満たすためにあきらめるように迫るなんて、なんと卑劣な打算でしょう。しかし驚くべきことに、エサウは承諾し、ヤコブは長子のもつ相続の特権を手に入れました。財産相続はともかく、 <u>エサウは神の霊的祝福を軽視してしまったのです(その点では、ヤコブは神の祝福を第一にしていたということもできます)</u> 。ストーリー展開のわかりやすい要約はAG教案小学下級第2巻「長子の特権を売るエサウ」参照。
☞	ヤコブとエサウの争いは後の旧約を通してのイスラエルとエドムの争いとして継続されます(例:民数記20:14-21、1サムエル14:47、2サムエル8:14、2列王記8:20-22)。
□ポイント2	ヤコブは父イサクをだまして、エサウの祝福を横取りしました(27:1-29) イサクは(視力が悪くなったというより)目が見えないほど体が弱ってきました。死を前にして遺言を残そうとします(実際にはあと数十年生きましたが)。それを聞いたリベカが、何とかヤコブに祝福を得させようと、すばやく作戦を実行しました。ヤコブも本当にそれで成功するのかと躊躇しましたが、母の言うこ

とに従いました。(話の流れについてはAG教案小学下級第2巻「父をだますヤコブ」)参照。イサクは、ヤコブをエサウだと思って祝福の祈りをささげました。これは、遺言であると同時に必ずそのようになる預言的な祈りでもありました。それを通して神がアブラハム-イサクと契約された祝福が、ヤコブへと受け継がれました。

☞26章はテキスト範囲に含まれていませんが、メッセンジャーは必ず読みましょう(特に34-35節)。

### □ポイント3 ヤコブは家を出ていかなければならなくなりました(27:30-45)

そこへエサウが帰ってきました。ヤコブが父をだまして祝福を奪ったことに気付いた時、ショックのあまり、イサクは「激しく身震いして」、エサウは「大声で泣き叫び」ました。当然、エサウは自分も祝福して欲しいと何度も頼みました(34・36・38節)。しかし、それはできませんでした。イサクは父として子どもを祝福する祈りをする権威を与えられていましたが、祝福を与えてくださるのは神です。それを人間の都合や好みで、「やっぱり取り戻します」とは言えません。エサウは殺したいほどヤコブを憎みました。

### □結論 神様のことを考えないで自分勝手に行動すると大変なことになります

注)この結論は、ヤコブのしたことを神の摂理として肯定する意味ではありません。確かにヤコブは、リベカの策略によって父をだまし、祝福を兄から奪い取り、「兄が弟に仕える」ようになりました。しかしヤコブやリベカの行為が聖書で肯定されているわけではありません。その証拠に、彼らは報いとして苦しみを受けています。リベカは愛する息子ヤコブと生き別れになり、ヤコブもラバンにだまされて苦勞し、その後も悲しみの多い人生を送りました(28-31章、34章、35:19、47:9参照)。また、イサクも自分の偏愛するエサウだけを祝福しようと工作しましたし、エサウも空腹のために長子の特権を売りました。つまり彼らは、4人とも「的外れ」でした。神の計画より、自分たちの思いを優先させようとして、だまし合い、傷つけ合い、家族はバラバラになりました。しかし、神の計画は、それらを超えて進行していったのです。初めから、神はヤコブの行為や性質に関わらず、彼を祝福される計画でした。

暗唱聖句を読み上げます

### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)神さまは初めからヤコブを祝福する計画をもっておられました。しかしリベカもヤコブも神さまが祝福してくださる時を待つことができず、自分の考えで悪い計画を実行しました。神さまの計画が一番だということを信頼できなかったのです。私たちは、人間の計画ではなくて、神さまの計画が最高だと信じましょう。神さまが必ず良いことをしてくださると信じよう。神さまはあなたを選び、あなただけにスペシャルな計画をもっておられます。それはあなたの行為や能力に関係ありません。ただ、神さまを第一に信頼しよう! そうすれば必ず祝福されます。

例2)ヤコブが、お父さんをだまして兄エサウの祝福を奪ったことは大きな罪です。小さな欲やねたみが大きな罪となり、家族や友だちが憎しみ合う関係になってしまうことがあります。あなたも兄弟(姉妹)や友だちが持っているものをうらやましがって、奪ってやろうと思ってしまうことはありませんか(ゲーム・文房具・アクセサリ・おかし等)?他の人が悲しむのを気にせず、自分が得をすることばかり考えてしまうことはありませんか(自分のやりたいことばかり主張する・少ないおやつを分けないで自分が取る・自分が叱られないように人のせいにする等)?兄弟や友だちの間で、バレないように、何かをごまかしてしまうことはありませんか(お兄ちゃんのケーキを冷蔵庫からだまって取って食べる・弟にゲームで勝たせないようにズルをする等)?「いつもお兄(姉)ちゃんばかりズルい!」とか「弟(妹)はワガママだからキライ!」とか考えるのはやめて、仲良くゆずり合いましょう。